

## 日本・パラオ友好の橋

Bridges of the World

パラオ・コロール島／バベルダオブ島



パラオ・2012年発行

パラオ共和国は、太平洋上のミクロネシア地域に属する島々から成る国で、1994年に独立国になりました。人口は2万人強、大半がコロール島と、飛行場と現在の首都のあるバベルダオブ島に居住しています。

両島の間は幅約250m、水深約30mの海峡で隔てられており、渡し船で行き来していましたが、1977年にアメリカの援助で橋が架けられました。韓国の会社が施工したこのコンクリート橋が1996年9月に突然崩壊、これによって橋に添架されていた水道、電気が不通になり、人々の生活に大きな支障が生じました。政府は浮橋を架けて急場をしのぐ一方、日本政府に橋の建設を要請しました。

要請に応じて、無償資金協力を行い、日本の建設会社が担当して1997年に着工、2002年1月には開通式が行われ、「日本・パラオ友好の橋」と名付けられました。

橋の規模は、橋長が約413m、幅員が約9m（2車線＋片側歩道）で、中央スパン長は247m、両側のスパン長は85mになっています。橋の形式は、3径間連続鋼コンクリート複合エクストラード橋と言います。エクストラード橋とはプレストレストコンクリート橋の一種で、桁に圧縮力を加えるケーブルなどが桁の外に出されて短い塔に支えられている形式です。この橋では更に中央スパンの中央部分の85mが鋼桁になっていて、両側のコンクリート桁と剛結されています。

コンクリート部は現地で順次組立てられていきましたが、鋼桁部は日本のメーカーが担当し、ベトナムの工場で作成した部材を中国広州のドックで組み立て、大きな台

船に載せてパラオまで運び、コンクリート桁から釣り上げて、所定の位置にセットされました。橋の架設中に強い風による振動が生じないように、実験で確かめた制振対策が施されました。

パラオは第一次世界大戦後、日本の委任統治領となり、多くの日本人が移住し、日本語教育も行われました。第二次大戦ではペリリュー島で激戦があり、日米双方に多くの戦死者が出ました。しかし現在では国民は大変親日的であると言われています。この橋の完成によって日本の印象が更に高まったことでしょう。



提供：鹿島建設株式会社